

報 告

第 35 回日本リハビリテーション工学協会車いす SIG 講習会 in 高知

生き生きサポートセンターうえるば高知 二宮 康公

1. はじめに

2012年1月28・29日の二日間、高知県立ふくし交流プラザにて第35回日本リハビリテーション工学協会車いすSIG講習会in高知が開催されました。車いすSIGは私が学生の頃、卒論の研究発表の準備をしているときに車いすSIG講習会のテキストを拝見し、その当時からとても興味を持っていました。テキストを眺めて「いつかこんな講習会に参加してみたい!」と思いつつも、なかなか機会を作れず月日が立ってしまっていました。

私は学生の頃からスーパーバイザーや教員の影響もあって車いすに興味を持ち、就職してからも先輩に教わったり文献を読んだりしながら、車いすの調整やクッションの作製等を行なってきました。しかし、なかなか結果が出せなかったり、姿勢は良くなったが生活自体には変化が見られなかったりと、苦戦もしていました。

そんな中、私の地元、ここ高知で車いすSIG講習会が開催されるということを知り、早速受講することを決めました。今回の講習会では、改めて「車いすが変われば、人の生活・人生が変わる」ということに気付かされた気がします。そしてまだまだ自分のすべき事がたくさんあることに気付くことができました。

2. 車いす SIG 講習会 in 高知

就職して6年目にしようやく参加することとなった車いすSIG講習会。学生の頃から参加してみたいと思っていた講習会ですのでワクワクしながら当日を

迎えました。

会場には全国から参加者が集まっていました。講師の方々はもちろん、メーカーから参加しているスタッフや受講者達も、それぞれが「車いすの現状や関わっている方をより良くしたい」という想いを持った方々ばかりで、たくさんの刺激を頂きました。

今回のテーマは「車いすの基礎」ということで、講習会の中では車いすの基本的な構造から身体と適合させるための寸法の測定方法、車いすクッションについてなど車いすに関わる人ならば知っておかなければならないであろう「イロハのイ」を学ぶ事ができました。「イロハのイ」と言ってもその内容は非常に奥が深く、車いすのフレームの素材や構造、クッションに使われる素材による違いなど、今まで分かったつもりで分かっていなかった部分に気付くことができました。車いすを使用する方の身体に適合させることはシーティングの第一歩。自分なりにできていたつもりでも、まだまだ見抜かっていたりポイントがズレていたり、現場に帰ってから見直す必要があることが多くありました。

また、ランチョンセミナー形式で各車いすメーカーから新商品やおすすめ商品の紹介を聞く時間があり、その後、別の部屋にて車いすやその他の関連商品の展示会も開かれるという内容になっていました。会場で商品を見て回るのに十分な時間があり、実際の商品に試乗して体感し、日々進化している車いすの機能や性能に驚きました。

講習会のなかでは事例を通して発表をしてくださる講師の方もおり、車いすを通じた関わりでその方の生活・人生が大きく変わっていくそのエピソードにとっても感動しました。電動車いすやその他の福祉用具を使用することで生活の範囲・可能性が広がること。重度な障がいがあっても自分らしい生活が送れること。車いすに乗らざるを得ない状況は決してネガティ

生き生きサポートセンターうえるば高知

〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1

(高知県立ふくし交流プラザ内)

ブではないこと。適切に選択され、適合された車いすを使用している方々の生活はとても充実していて楽しそうでした。

車いすの適合といっても、寸法がきちんと合っていればいいのではなく、その方のライフスタイルに合っているのかどうか重要なのだと気付かされました。また、講師の方のように「対象者の生活・人生が変えられる」、そんなセラピストになりたいと、目標が見えてきました。

3. ところが現場では・・・

私は勤務先で回復期病棟や療養病棟において主に高齢の方々に関わっています。その中には車いすの姿勢に問題があり、車いすやクッションを調整する必要のある方が多くいます。しかし、院内にある全ての車いすに調整機能が付いているわけではありません。昔ながらのリクライニング車いすも存在します。クッションも同様に必要な数が揃っておらず、それぞれの患者さんの状態に合ったものではありません。現場では、崩れた姿勢で座っている方がまだまだ多いのが現状です。

私自身、適切な車いすやクッションを現場に取り入れるような働きかけが、果たしてどれだけできていたのか？今までは年に1回程度、1～2台の車いすやクッションを注文していただけでした。でもそれだけでは入院している全ての患者さんに対応できる環境が整えられるはずがありません。だからこの現状があるのではないかと反省しています。

また、一人の人の生活を考えると、私達リハスタッフだけではなく、多職種の関わりがとても重要な因子になると思います。研修の中でも、ベッド上での姿勢や、車いすに座るまでの動きの流れのなかで、不良姿勢を招く要因がある、ということをお話されました。車いすの上で崩れた姿勢を正しい姿勢に直すためには、車いす上の対応だけでは不十分で、その他の時間での関わり方がとても重要になってくる、と。しかし、どこまでその大切さに気付いていたのか・・・。

今までも、他のスタッフにその事を理解してもらえるような働きかけについて必要性も感じていましたし、やっているつもりでした。しかし、心のどこかで「自分はできている」、「崩れて座っている人は他のス

タッフのせいだ」と他人の責任にしていたのではないかと感じました。セラピストとして患者さんの生活をより良いものにしていくことを考えると、自分が関わる時間以外の場面でもとことん責任をもって真摯に患者さんに関わる、そんな気持ちが欠けていたのではないかと・・・。

4. これからの課題

今回、車いす SIG 講習会に参加して、改めて「正しく座ること」の大切さに気付かされました。人の生活を考えると、正しく座れることはとても当たり前の事ですが、今一度現場を見直すとそれすらも自分自身が満足に対応できていなかったという現実が見えてきました。

「正しく座って過ごす事」が当たり前の環境を作っていくためには、調整ができる車いすやクッションが当たり前にそこにある環境を作っていく事も重要だと思います。職場に対して必要なものは必要であると訴えると同時に、しっかりと結果が出せるように動きたいです。また、自分だけの知識・技術では現場を変えていけるだけの力にはなり得ません。まずは私自身が患者さんの24時間の生活に責任をもった関わりをしていながら、周りのスタッフにも「正しく座る事」の大切さを感じてもらえるように取り組んでいく必要があると思います。そのような関わりをなかで、他のスタッフとの良い関係を作っていく、患者さんにとってより良い関わりができるチームも出来ていくのではないかと考えます。

興味がある人だけが関わるシーティングではなく、誰もが「正しく座ってもらうための関わり」が当たり前に行える現場になるように、まずは自分の関わり方から見つめ直そう、と改めて心に決めました。その目標に向かうためにはどれだけ時間がかかるかわかりません。まだまだ知識も技術も足りませんが、「患者さんの生活・人生を変えたい」という想いをより強いものにして現場の課題・自分の課題を一つ一つクリアしたいと思います。これからも、車いす SIG 講習会やリハ工カンファレンスなどに定期的に参加しながら最新の情報をキャッチし、先輩方から多くの学びを实践して自分のものにしていきたいと思っています。